

研究機関：広島大学

研究課題名	腸内細菌叢をヒト化した消化器・代謝疾患モデルマウスの開発
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器・代謝内科学 教授 茶山 一彰
研究期間	2019年7月3日(倫理委員会承認後)～2024年3月31日
対象者	2017年5月15日から2022年3月31日までに、広島大学病院消化器・代謝内科を受診された患者さんのうち、先に承認を受けた「消化器・代謝疾患における腸内細菌叢の果たす役割に関する研究(承認番号E-775)」へのご参加を同意いただいた方(患者・健常成人)を対象とします。
意義・目的	近年、腸内細菌叢(腸内に定着する細菌群の構成)とさまざまな消化器・代謝疾患(脂肪肝、肝硬変、糖尿病、肥満、炎症性腸疾患、偽膜性腸炎、過敏性腸症候群など)との関連が明らかになりつつあります。薬剤の投与や糞便移植などで腸内細菌叢を変化させることが、疾患の治療に結びつく可能性も示されていますが、まだ確立したものはありません。今後、腸内細菌叢と疾患との関わりを調べたり、実際の疾患治療への応用を進める上で、それらを適切に評価できる動物実験モデルが不可欠です。これまでも腸内細菌叢をヒト化した動物実験の報告はあるものの、いずれも各実験室レベルでの開発であり、広く使用できる疾患モデルとして安定的に供給可能なものではありませんでした。今回、消化器・代謝疾患特有の腸内細菌叢を保持したモデルマウスを作製するために、この研究を計画しました。
方法	本研究には、平成29年5月15日付けで本学倫理委員会の承認を受けた「消化器・代謝疾患における腸内細菌叢の果たす役割に関する研究」(承認番号：第E-775号)で得られた糞便試料の余剰分を利用します。先の研究で利用される疾患情報(診療記録から得られたもの)を糞便試料に紐付けして、動物実験に用います。なお、個人を特定可能な情報は本研究に用いません。30名の患者さんと10名の健常成人ボランティアの方に参加していただく予定です。
共同研究機関	株式会社フェニックスバイオ 糞便試料は、広島大学で匿名化した上でフェニックスバイオへ提供し、マウスに投与されます。
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科消化器・代謝内科学 教授 茶山一彰
個人情報保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりすることのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel: 082-257-5190 広島大学病院消化器・代謝内科 教授 茶山 一彰